

教員に求められる資質・能力の育成を志向して —指導計画（指導案）の作成を通して—

福山 多江子・生野 金三・大澤 洋美・香田 健治

I はじめに

平成18年に中央教育審議会が「今後の教員養成・免許制度の在り方について」といった課題のもとに教員養成の具体的方策について答申を発表した。それは「教員としての必要な資質能力の最終的な形成と確認」という項において、

教員としての最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、教職課程の中に、新たな必修科目（「教職実践演習（仮称）」を設定することが適當である⁽¹⁾。

としている内容である。その教職実践演習は平成22年度より新設科目として教職課程の中に位置付けられた。その教職実践演習をめぐって、中央教育審議会の答申では、

教員として求められる4つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項④教科・保育内容等の指導力に関する事項）を含めることが適當である⁽²⁾。

としている。以下においては、本稿と関わりのある③と④について触れる。③には、「気軽に子供と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができるか。」「子供の声を真摯に受け止め、子供の健康状態や性格、成育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができるか。」「社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や子供の変化を、進んで捉えようとする姿勢を持っているか。」「子供の特性や心身の状況を把握した上で学級経営案を作成し、それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持っているか。」等の内容が含まれる。④には、「自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができるか。」「教科書の内容を十分に理解し、教科書を介して分かりやすく学習を組み立てるとともに、子供からの質問に的確に応えることができるか。」「板書や発問、的確な話し方など基本的な授業技術を身に付けるとともに、子供の反応を生かしながら、集中力を保った授業を行うことができるか。」「基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示を分かりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができるか。」等の内容が含まれる。この教職実践演習の新設科目は、課程認定の大学において、学生が身に付けた資質能力が、教員として最少限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたか否かについて確認（教師像や到達目標等に鑑みて）するためのものである。

教職実践演習において、教員として必要な資質能力の育成に当たっての授業方法をめぐって、答申は、

役割演技（ロールプレーイング）やグループ討論、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れることが適當である⁽³⁾。

としている。ここでは、教職実践演習において模擬授業を導入するとしているが、これは教材研究、学習指導案・板書計画・発問計画・作業のプリント・教材等の作成等の授業設計よ

り授業実施にいたる一連のこととを受講者である学生に体験させることによって教師（教員）としての実践的指導力の基盤の育成を志向しているに他ならない。

上記のことを簡約すると、それは課程認定大学においては、学問の内容論や方法論を基盤に将来実践の場で柔軟に活用できる実践的指導力の基礎を構築するような授業内容や授業方法を適切に工夫する必要があるということである。

以上のことと踏まえ、本研究では教職に関する科目において受講者である学生が授業設計（指導計画〈指導案〉）を行い、そして模擬授業・模擬保育を試み、その授業記録を分析し、教員・保育士として必要な資質・能力が如何に高まったのかを探ることを目的とする。

II 保育観の形成 — 実習を通して —

1 実習の様相と振り返り

【実践1】

(1) 保育指導法演習における実習の振り返りから

保育指導法演習は、2年次に学生が実際に保育することを想定しながら、保育の方法を学ぶ中で学生自身が自ら気づき課題解決に向かうことが出来るように指導内容の工夫を図ることを目的とする授業である。授業の中で明確化した課題を解決することや自分の保育観の変化を授業の振り返りを通して感じることが出来るように授業構成をしている。

ここでは、2年次に全実習5回（保育園2回、幼稚園2回、施設1回）の実習を終了した学生の振り返りから、実習が学生の保育観に与える影響について推察する。

課題 保育指導法演習29回「あなたにとって保育とは」

2年間を振り返り、自分の成長と課題とこれからの自分について書きなさい

Oさんの回答

私はこの幼稚教育科の2年間でとても大きく成長することが出来たと思います。入学当初の私は、臆病で何事にもネガティブですごく弱気な部分が常にあり、その部分が目立っていました。そんな私が大きく変わったと思うきっかけは、日々の授業はもちろんですが、特に実習が大きく影響したと思います。

1回目の幼稚園実習は幼稚教育科に入って初めての実習だったのですごく印象に残っています。不安と緊張でいっぱいになってしまい、子どもとは楽しく遊べましたが、保育者とのかかわりが積極的にできず元気がないと言われてすごく落ち込んだことを覚えていました。

2回目の幼稚園実習で印象に残っているのは責任実習でした。授業でたくさん学びいろいろなことを吸収した状態だったので、心も強くなり考え方や子どもとの接し方、言葉のかけ方、保育者としての役割を理解し、保育者の配慮に気づくことができて、初めての実習の時と、見方が変わり学びも深かったです。反省の部分や改善すべき点はたくさんありましたが、先生方に褒めていただきました。

実際の指導では、自信はまだありませんでしたが、子ども達の前ではおどおどしている姿は見せられないと思い必死に製作活動への言葉掛けやピアノの弾き歌いや絵本の読み聞かせ

もしました。子ども達は正直なのでいろいろなことを言ってくれました。落ち込んでいても子どもの言葉で元気になれることがありました。

1回目の保育園実習では園の先生方がとてもやさしい方ばかりでした。一日の振り返りの時間で丁寧に一日を振り返りながら子どもへの対応の仕方など詳しく教えてくださりとても勉強になりました。子ども達ものびのびと過ごし、先生方もよい方ばかりでここで働きたいと思えた園でした。今では、働きたいと思っていた園に就職が決まりとても嬉しいです。4月から緊張もありますがとても楽しみです。

2回目の保育園実習は1回目と違う園でした。0歳児で不安もありましたが、何とか無事に終えることが出来ました。保護者の方からもお褒めの言葉をいただき少し自信になりました。

2年間の授業の中では、いろいろな授業の中であるディスカッションがとても力になりました。話し合いがあまり得意ではなく嫌いでしたが、何回も行っていく中で、他者の意見を知ると「こんな考え方があるのか」という違った目線を知ることが楽しく自分の力になることが分かってきました。話してみないとわからないことがたくさんあるのだと知ることができました。

保育者になる上でも、話し合いや自分の考えや意見をどのように伝えていくか、他者の意見を受け入れていくことは大切だと改めて分かりました。人のことが考えられるようになりました。

また、日々の生活の中で変わったことがあります。保育の勉強をしているからか、電車で見かけた赤ちゃんや子どもに目が行くようになりました。何歳なのかな、何を見ているのかな、お母さんやお父さんはどんな会話をしているのかな……など、目で追うようになりました。

今まで、絵本など、あまり見ませんでしたが、今はどんな絵本があるんだろうと興味があったり、こんなに面白い絵本があるのかと発見があったりして楽しいと思えます。

これから自分については、就職先の保育園で一生懸命に子どもと楽しく頑張っていきたいです。どのクラスに入るかわかりませんが、一人一人の子どもを理解して信頼関係を築いていきたいです。難しいことや大変なことがあり悩むことがあると思いますが、その壁を乗り越えて保育者として長く働きたいです。

入学当初は友達ができるかとても不安でした。ですが今ではとても大切な仲間との出会いが出来ました。○○組でよかったですと強く思います。

実習中では連絡を取り合い励まし合いました。お互いに違う道を行くことになりますが、これからもずっと続いてく友達だと思うので大切にしたい存在です。

授業では、子ども達のエピソード話や授業の内容はとても楽しく勉強になりました。

子どもの気持ちを読み取ることは、そう簡単ではないことですが、自分が楽しいと思うことは子どもにも伝えられるようになりたいです。全力で楽しめる保育者になります。

分析

Oさんの振り返りからは、様々なことの中でOさんが一番成長や変化、学びが深かったこととして実習があげられる。

◆不安から自信へ

幼稚園実習1回目

子どもとは楽しく遊べましたが、保育者とのかかわりが積極的にできず元気がないと言われてすごく落ち込んだことを覚えています。

- 自信がなかったことを思い出している。

幼稚園実習2回目

授業でたくさん学びいろいろなことを吸収した状態だったので、心も強くなり考え方や子どもとの接し方、言葉のかけ方、保育者としての役割を理解し、保育者の配慮に気付くことができて、初めての実習の時と、見方が変わり学びも深かったです。

- 授業や責任実習での経験を自信につないでいる。

- 自分の保育の捉え方の変化に気が付く。

保育園実習

1回目の保育園実習では園の先生方がとてもやさしい方ばかりでした。一日の振り返りの時間で丁寧に一日を振り返りながら子どもへの対応の仕方など詳しく教えてくださいとても勉強になりました。子ども達ものびのびと過ごし、先生方もよい方ばかりでここで働きたいと思えた園でした。

- 自分の理想とする園で幼児理解を深めている。

2回目の保育園実習は1回目と違う園でした。0歳児で不安もありましたが、何とか無事に終えることが出来ました。保護者の方からもお褒めの言葉をいただき少し自信になりました。

- 1園目の保育園との差を感じながら、自分の成長を感じている。

◆保育観について

また、日々の生活の中で変わったことがあります。保育の勉強をしているからか、電車で見かけた赤ちゃんや子どもに目が行くようになりました。何歳なのかな、何を見ているのかな、お母さんやお父さんはどんな会話をしているのかな……など、目で追うようになりました。今まででは、絵本など、あまり見ませんでしたが、今はどんな絵本があるんだろうと興味があったり、こんなに面白い絵本があるのかと発見があったりして楽しいと思えます。

子どもの気持ちを読み取ることは、そう簡単ではないことですが、自分が楽しいと思うことは子どもにも伝えられるようになりたいです。全力で楽しめる保育者になります。

これから自分の自分については、就職先の保育園で一生懸命に子どもと楽しく頑張っていきたいです。どのクラスに入るかわかりませんが、一人一人の子どもを理解して信頼関係を築いていきたいです。

○実習を通して自信が持てるようになってきたことも確かめられる。また、実習と授業により保育の見方や考え方方が深まり視野を広げたことで、保育観が形成されていることを捉えることが出来る。

考 察

1年時の1回目の実習では、専門的な知識の少なさが不安につながっているが、2回目以降の実習では、「授業でたくさん学びいろいろなことを吸収した状態だったので、心も強くなり考え方や子どもとの接し方、言葉のかけ方、保育者としての役割を理解し、保育者の配慮に気づくことができて、初めての実習の時と、見方が変わり学びも深かったです。」と書かれているように、専門的な学びが精神的な支えとなり、指導方法や幼児理解などの学びを深めている。1回目の実習の「子どもとは楽しく遊べましたが」という視点から大きく成長していることが認められる。また、自分の保育の捉え方の変化にも気が付き、自分の成長を感じながら、保育者になった時の課題も「どのクラスに入るかわかりませんが、一人一人の子どもを理解して信頼関係を築いていきたいです。難しいことや大変なことがあり悩むことがあると思いますが、その壁を乗り越えて保育者として長く働きたいです。」と具体的に持てるようになっている。実習が保育観に大きく影響していることが確かめられる。また、仲間との関係、授業での学び、人との出会いが実習を支える大きな要因になることも分かった。

2 幼稚園教育実習（責任実習）における指導計画の作成とその振り返り

(1) 研究方法

研究対象：東京成徳短期大学幼稚教育科29年度入学の学生（2年生186名）

研究方法：幼稚園教育実習（責任実習）の指導計画とその振り返りを分析する

研究期間：2019年6月～7月

(2) 実習前の授業内容

【実践2】

指導案作成について

教育課程総論の授業において指導案作成について講義を行う。

1年次に保育実習指導の授業において指導案作成の大まかな流れと指導案の書き方については指導済みであるが、より具体的に詳細に指導を行う。

① 教育課程・全体的な計画を理解するための講義を行う。

② 幼児理解についての講義を行う。

（子どものどのようなようすを見て理解することができるのか、動作、しぐさ、表情などや、日ごろの一人一人の子どものようすなど）

③ 指導案を作成する際に子どもを理解すること（最近の子どもの姿を観察し、それに応

じてねらいや内容を決める必要があるため)が重要なキーポイントとなるため、各年齢の子どもの姿のDVD(新宿スタジオ:実践に学ぶ幼児の保育、3歳児編、4歳児編、5歳児編)を視聴し、大まかな年齢による発達段階の違いや子どものようすを理解するよう講義を行う。

⇒気が付いた点など、各学生がメモを取るようにする。

④ 「ねらい」「内容」の違いや記入を行う。

ねらい⇒具体的な活動を通して幼児に育つことが期待される「生きる力」の基礎となる心情・意欲・態度について、子どもを主体として記入を行う。

内容⇒「主活動」を中心となる活動であり、ねらいを達成するためには、子どもがどのような経験をすることが必要であるかを考え、具体的な活動を端的に子どもを主語として記入を行う。

⑤ 「環境構成」に何を記入するかを理解するよう講義を行う。

そのときの保育室またはそのときの場所の環境を図式化して記入を行う。

環境構成は、その時の保育者の立ち位置や、子どもの並び方のほかに、その時に使用する物も合わせて記入を行う。

⑥ 「予想する子どもの姿」について何を記入し、どのように視点を置くかを理解するよう講義を行う。

子どもがその時にどのような行動をし、どんな気持ちでいるのか、その気持ちを予想し、記入する。この時に、子どもが主語となるように記入を行う。

⑦ 「保育者の援助・配慮」について何を記入し、子どもの姿を予想し、その予想について保育者の援助や言葉かけをどのように行ったらよいかを理解するよう講義を行う。

保育者がその時に子どもに対し、どのような配慮や援助を行うかを予想し、保育者を主語として記入を行う。

*記入が終了したら、文章の時制が全て統一されているかの確認を行う。

・これらを踏まえ、実際に行われている幼稚園の保育を1日の流れに沿ってDVD(新宿スタジオ:保育者を目指すあなたへ、ある幼稚園教諭の一日)を視聴し、その保育を時系列に沿ってメモをとる。

・メモを基に時系列に沿って登園から降園の指導案を作成する練習を行う。

・指導案作成の練習を基に、各自が責任実習で考えている指導案を作成する。担当するクラスの年齢を考慮し、実際に製作を行い、その時に気づいた点や子どもの行動、言動、援助などを予想し、作成していく。

(3) 責任実習

各園で子どもの姿やその園の保育の特徴を把握する。授業の中で作成した指導案を園の実習指導教員に指摘を受けた個所を子どもの姿を観察したものも考慮し、加筆修正し、それもとに責任実習を行う。

(4) 実習後の授業内容

子ども理解についての授業を行う。

学生たちが経験した責任実習から、子どもを理解することとはどんな視点で観察し、どの

ように理解するのが最善か、事例を交えて講義を行う。

その事例は、その子どもの行動を事実のみで記録したものと、その事実に子どもの行った行動に対しての意味づけを付け足したものプラス周囲の子どもの反応も書き加えたものの2パターンを示し、どちらの方が子どもを理解するためには良いかを比較し、理解をするための方法を考察する。

各自が責任実習を行った時の指導案を持ち寄り、指導計画の振り返りを行う。グループの中でたたき台となる指導計画を選び、そのグループ内で話し合い、より良い指導案にするためにはどこを加筆修正したらよいかの意見を出し合う。その際、幼稚園教員から責任実習で指摘された点なども考慮しながら作成する。

最後のまとめとして指導計画を作成する際に重要であろうと思われる点、5項目を書き出す。

(5) 結果と考察

① 結 果

○たたき台の指導案から話し合われたこと

「紙飛行機の製作」

指導案作成を行うにあたっての話し合い

| 幼児の活動 | 保育者の援助・指導上の留意点 | その援助や留意点を何故行うかの理由 |
|----------|--|---|
| ・順次登園 | 登園をしてくる子供に対して笑顔で挨拶をする | 気持ちの良い朝を迎えるようにする |
| ・自由遊び | 子ども達を見守りながら一緒に遊ぶ | 危険がないようにするため |
| ・片付け | 率先して片付けをしている子の名前を呼ぶ | 他の子ども達も積極的に片付けられるようにするため |
| ・おやつ | おやつを配る際、今日も一日頑張れるよう声をかける | 一日を意欲的に過ごせるようにする |
| ・朝の活動 | 目標に対して意欲的に取り組めるような声をかける | |
| ・主活動 | 製作の導入として絵本を読む | 製作の意欲がわくようにする |
| 「紙飛行機製作」 | 椅子の向きを変え、実物を見せ、実際に飛ばして見せる 前で大きい模造紙を使って折る 子ども達を見て回る ホールで飛ばすことを説明する クラス皆で応援する 自分の作品を鞄に入れるよう促す | 話に集中できる環境をつくり、題材への関心や興味を持てるようにする 折ることに対して見やすく、分かり易いため、意欲的になる 安心感を持って取り組むことができる活動に期待を持つ 飛ばすことを持っている子どもも楽しめる壊れたりなくなったりしないようにし、気持ちよく帰れるように配慮をする |
| ・給食 | 誕生日ごとに麦茶を入れるよう促す 子どもたちと一緒に歌う 子どもたちと楽しく食べる 食べている子どもに声をかけ、皆で挨拶をする 周りを見ながら椅子を運ぶように促す | 子ども同士でいれるため、順番を伝えた方が危険がない。 楽しく歌える 給食の時間が楽しくなるようにするため 集団生活の意識がもてるようにする 子ども同士で危険が起らないようにする |
| ・帰りの活動 | 今日一日を振り返る 皆で当番にお礼を言う ピアノを弾きながら子どもの表情を確認する 子ども達の顔を見ながら大木声で挨拶をする | 子ども達が楽しかったという余韻を味わえる 当番が達成感を味わるようにする 楽しく歌えているか、表情を確認する 今日一日を楽しく終えられるようにする 明日の登園が楽しくなるような声かけをする |

○これらを話し合った結果の指導案

| <p>幼児の実態（男児 15名・女児 14名 計29名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせの際、絵本を持ち、集中して聞く姿が見られる。 マスクで行う製作活動で、真剣で積極的に取り組む姿が見られる。 保育者に褒められると、意欲的に行動する姿が見られる。 製作活動や身支度をする際、子ども同士が歌ふ合唱が見られる。 | <p>お問い合わせ ・紙飛行機の製作に意欲を持って取り組み、新しい飛ばし方を見つめる。 ・角を折り、折り紙を折り、自分で製作して紙飛行機を飛ばす遊びや嬉しさが味わい。 ・輪郭線の性質に興味を持ち、勢いをついたための後刷りやあたみを活用。 ・情報が詰まらないよう空虚に既発するなどで、子どもたちに少し良い思い出となる形で楽しい活動で終一杯楽しめたようにする。</p> | | |
|--|--|--|----|
| 時間 | 幼児の活動 | 保育者の支援助と自己発現 | 環境 |
| 8:30 | <p>①順次着園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園カード提出 ・カドオリ袋にシールを貼る ・園服を脱ぐ ・帽子を脱ぐ ・靴を脱ぐ ・靴を脱ぐ ・自由遊び（アロマ、風船、ブルーベリー、人形） | <p>・登園してくれた子どもたちに対して、健康な習慣をもろんじて、気持ちの良い朝となりえらせよう。</p> <p>・遊びの中で元気で遊んでいた子に対して褒美を伝える（褒め付ける）</p> | |
| 10:10 | <p>・自己紹介</p> <p>・椅子を出す</p> <p>・封印</p> | <p>・園児が遊んでいた子たちに対して褒美がいくつも飛ばす</p> <p>・子たちが楽しそうに遊ぶように見守り、子どもたちが楽しむ</p> <p>・率先して自己紹介した子たちに対して褒美を伝える（褒め付ける）</p> <p>・積極的に手を出していく子たちに対して褒美を伝える（褒め付ける）</p> <p>・トイレから出でた子たちに席に戻らなければいけないときに見守る（見守る）</p> <p>・会議をする</p> | |
| 10:20 | <p>・消防</p> <p>②おやつ（ピニャッキ）</p> | <p>・消防もおもしろい（褒め付ける）</p> <p>・ピニャッキを子どもたちで試す際、今日も一日頑張ったよ！声を掛しながら配る（褒め付ける）</p> <p>・水色補能でもある（褒め付ける）</p> <p>・クイズ形式で当番を発表するなど、子どもたちが期待を持たせてくれる（褒め付ける）</p> <p>・自閉症児の行動観察の際に見守る（見守る）</p> | |
| 10:25 | <p>・水色補能</p> <p>③朝の活動</p> <p>・当番発表</p> <p>・当番へのインタビュー</p> <p>・歌「わくわくワクワク」</p> | <p>・水色補能でもある（褒め付ける）</p> <p>・クイズ形式で当番を発表するなど、子どもたちが期待を持たせてくれる（褒め付ける）</p> <p>・自閉症児の行動観察の際に見守る（見守る）</p> <p>・歌「わくわくワクワク」</p> | |
| 10:40 | <p>・朝の準備</p> <p>・一日、天気の確認</p> <p>・出席確認</p> <p>・原石の確認</p> <p>④手筋活動 紙飛行機製作、参加指揮して飛ばす</p> <p>・紙飛行機「ハーレム」の作り方</p> | <p>・朝の準備（褒め付ける）</p> <p>・一日の流れで話す（褒め付ける）</p> <p>・紙飛行機「ハーレム」の作り方（褒め付ける）</p> <p>・紙飛行機「ハーレム」の作り方（褒め付ける）</p> | |
| 10:50 | <p>・飛行機を見る</p> <p>・模造紙を配る</p> <p>・飛行機を折る</p> <p>①③→③→④→⑤⑥の順でかかる</p> | <p>・飛行機を見る（褒め付ける）</p> <p>・模造紙を配る（褒め付ける）</p> <p>・飛行機を折る（褒め付ける）</p> <p>・順序通りに折ること（褒め付ける）</p> | |
| 11:00 | <p>・完成した紙飛行機を見せる</p> <p>・紙飛行機に紙を添へ話を聞く</p> <p>・マーカーの約束書を開く</p> <p>・マーカーで児童生が配る</p> <p>・飛行機に貼る貼り紙</p> <p>・児童生に児童生へ元へ行く（⑦⑧準備）（廃止）</p> | <p>・完成した紙飛行機を見せる（褒め付ける）</p> <p>・紙飛行機に紙を添へ話を聞く（褒め付ける）</p> <p>・マーカーの約束書を開く（褒め付ける）</p> <p>・マーカーで児童生が配る（褒め付ける）</p> <p>・飛行機に貼る貼り紙（褒め付ける）</p> <p>・児童生に児童生へ元へ行く（褒め付ける）</p> | |
| 11:05 | <p>・飛行機をホールで飛ばす話をする</p> | <p>・運動会が二つありますので、児童生の手帳に記入して貰います。</p> | |
| 11:10 | | <p>・飛行機をホールで飛ばす話をする</p> | |

| 時間 | 幼児の活動 | 保育者・の支援・と配慮 | 環境 |
|-------|---|--|------------------|
| 11:15 | <ul style="list-style-type: none"> ホールで活動する (男が例) (音の歌) 飛行機の飛ばす音の話を聞く。 飛ばう鳥を見た 人に向かって飛ばさない。 飛行機の音の話を聞く。 反対話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> 廊下で歩く時に音に注意するなど、園での約束事を守られるようにする。 飛行機の飛ばす音を聞きながら窓から飛行機の環境をつくり、子どもたちが楽しい時間を過ごせるようにする。 音楽会の間は音を出さないなど、音を下げる準備をする。 飛行機や車の音の歌を歌うなど、音を下げる準備をする。 飛行機の音を聞きながら窓から飛行機の環境をつくり、音を下げる準備をする。 | <p>①, ②の音の場所</p> |
| 11:20 | <ul style="list-style-type: none"> 飛行機の音がある ①女 ③男 ④便り生の音が聞こえてる | <ul style="list-style-type: none"> 子じゅうりで飛ばす音の歌をしながら一緒に歌い、飛ばす音の歌を歌う。 子どもたちが飛ばす音を歌うなど、音を下げる準備をする。 飛行機の音を歌うなど、音を下げる準備をする。 リズムの音を歌うなど、音を下げる準備をする。 子どもたちが歌うなど、音を下げる準備をする。 | <p>下り</p> |
| 11:30 | <ul style="list-style-type: none"> 競争で歌 ①女 ②男 ④便り生の音が聞こえてる 音楽発表 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの悔い気持ちを使ひ正めつつ、競争への頑張りを褒めるなど、褒め言葉を詰め込む。 飛行機の音を歌うなど、音を下げる準備をする。 子どもたちが歌うなど、音を下げる準備をする。 | <p>上り</p> |
| 11:35 | <ul style="list-style-type: none"> 便り生の歌を聞く | <ul style="list-style-type: none"> 自分が製作して紙飛行機でリターン歌の音を伝ふるなど、自分自身で遊びながら音を下げる。 便り生の歌を歌うなど、音を下げる準備をする。 子どもたち自身他の題材で音楽を手に入るよう促す。 | <p>ホール</p> |
| 11:40 | <ul style="list-style-type: none"> 保育園の歌 作品を部屋へ入れる 排泄、手洗い 消毒 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品や歌の歌詞を歌うなど、自分の歌詞だけを歌う。 トイレの様子を見守り、子どもたちがトイレで排泄できるようにする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 一日の始まりは歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 | |
| 11:45 | <ul style="list-style-type: none"> ○船の準備 魚類と人形 当番が船食を運ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 周りを見て壁から音が漏れると促すなど、子供同士危険のかなうにする。 当番が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 子どもたちが歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 | |
| 11:55 | <ul style="list-style-type: none"> マニコの発表 歌「かぐれ」 いたずら子の集団 船食と保育園の届け物 | <ul style="list-style-type: none"> 当番が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 子どもたちが歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 子どもたちが歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 一人ひとりの子じゅうりの頑張りを褒め、明日も積極的に進むよう促す。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 | <p>保育室</p> |
| 12:30 | <ul style="list-style-type: none"> ブランコの操作 片付け もぐもぐカードのスタンプ押す 当番が机を拭く 舗床を読む 舗床の内付けの方 封筒、消毒 | <ul style="list-style-type: none"> 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 | |
| 12:35 | <ul style="list-style-type: none"> ○体の活動 健脚カード遊び もぐもぐカード遊び 消毒、ビタミンCリー | <ul style="list-style-type: none"> 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 | |
| 13:20 | <ul style="list-style-type: none"> 床面図の図作り 手遊び「トントンアソブ」 旅館「おしゃべり」 今日の振り返り 明日の話 当番への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 声が聞こえ難い環境をつくるなど、子どもたちが自分のカードをスムーズに取り扱えるようにする。 古巣を掛けながら歌を歌うなど、月日を一日願賀歌といいつき歌を歌わんなどする。 便り生の周りに集まるアドバイスなど、声が漏れないようにする。 子遊が古巣など、子どもたちの歌練習の場所や集中の空間などを観察する。 旅館の内装や構造を観察するなど、旅館の構造を観察する。 一日と振り返ることで、子どもたちが楽しめたといふ感觸と味わいよい声を出すなどして、当番が達成感を味わえるよう促す。 アドバイスから子どもたちの表情と確認するなど、便り生が歌を歌ふなどする。 旅館をしながら大きな声で歌を歌うなどする。 旅館を歌うなどするなどして、今日一日を楽しんでお祝いする。 明日の音楽や歌について声を掛ける準備と見送る。 | |
| 13:40 | <ul style="list-style-type: none"> 歌「工行りの歌」 喇叭保育 喇叭開園 | <ul style="list-style-type: none"> 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 便り生が歌を歌うなど、歌を下げる準備をする。 | |

○指導案を作成して話し合った重要な5つのポイント

1. 子ども達を第一に考え、子ども達の成長につなげる。
2. ねらいや内容をしっかり定める
3. 完璧を求めない。
4. 子ども達の姿に合わせた援助方法を詳細に書く。
5. 年齢に合った指導計画をしっかりとたてる。

② 考 察

まず話し合われた結果の指導案を見ると、幼児の実態も非常に詳細に理解しやすく書かれていることが分かる。子どもたちの特徴も書かれ、そのクラスの子ども達がどのような時に意欲的であるのかなども、理解でき、指導案を作成する際の参考となる項目が書かれている。

これらの子どもの姿から、ねらい、内容が定められている。(子どもの興味・関心・意欲の持てる指導案の作成)

紙飛行機の製作に意欲を持って取り組み、新しい飛ばし方を知る。

⇒幼児の実態の中の、クラスで行う製作活動で、真剣に積極的に取り組む姿が見られる。という項目から、紙飛行機の製作活動を想定したと考えられる。

重要な5つのポイントの項目に着目すると、子どもを第一に考え、子ども達の成長につなげる、ねらいや内容をしっかり定める、という二点に合致していることが分かる。

このことから、『子どもの特性や心身の状況を把握した上で指導案を作成し、それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持っている』と考えられる。

また、「指導案の保育者の援助と配慮」の部分に着目してみると、

「登園てくる子どもに対して、笑顔で挨拶をすることで、気持ちの良い朝を迎えられるようにする」

「子ども達と一緒に遊ぶことで、危険のないように見守り、子ども達が楽しく遊べるようにする」

「率先して片付けをしている子の名前を呼ぶことで、他の子ども達も積極的に片付けられるようにする」

「最後に子ども達に自分の分があるかを確認してもらうことで配られていなかった時の不安や悲しい気持ちになる子どもがいないようにする。」

等、このような場合には、子どもの気持ちがどうなのか、子どもの気持ちにたった見方ができており、それを基に指導案が書かれていることを理解することができる。

このことは、主要5項目の、子どもを第一に考え、子ども達の成長につなげる、子ども達の姿に合わせた援助方法を詳細に書く。という2点に合致していると考えられる。

5歳児ならではの安全の配慮もされている。

「飛行機の飛ばし方を約束することで、安心して飛ばせる環境をつくり、子ども達が楽しい時間を過ごせるようにする」

「子ども達が飛ばしたことを確認し、一斉に取りに行くことで飛行機が当たって怪我をしないようにする」

「周りを見て確かめながらお茶を配るように促すことで、子ども同士で危険のないようにする」

等、子ども達への安全に対する配慮もなされていることが理解できる。このことは、年齢に合った指導計画をしっかり立てる。という項目にも当てはまる。5歳児であるからこそ子ども達に注意を促しながら動いてもらうことで、可能になることである。

そして子ども達が主体的に遊べるような言葉かけも配慮されている。

「自分で製作した紙飛行機でクラス皆が楽しめたことを伝えることで、子ども達自身で遊びを考えられるようにする」

「飛行機にも様々な飛ばし方や輪ゴムの使い方がある事を伝え、いつもとは違う使い方に興味を持ち、子ども達の発想が膨らむようにする」

等、子ども達が翌日も意欲を持って園に遊びに来ることができるよう、また、自分が製作したもので工夫しながら遊び込めるような配慮がなされている。

これらのことから鑑み、学生たちは指導案の作成の意図が理解でき、クラスをまとめながら主活動を設定できる指導案を作成できていることがうかがえる。子どもの気持ちに立った配慮がなされ、子ども一人一人には個性があるため、その指導案に対して、完璧を求めるという5項目の中の意図も理解できる。

指導案作成に関し、一つ一つの項目に対し詳細に時間をかけて講義できたことは、その作成において大まかな理解はできているのではないかと感じた。また、幼稚園の一日の流れをDVDを通して実際に画像を見ながら記録をし、それを基に指導案を書いたことも、実際に行っている保育をイメージすることができて分かり易かったようである。ただ、この指導案のねらいと内容がはっきりしていないことを感じ、今一度説明をしたところ、改めて提出したもの以下のである。

ねらい⇒製作活動に意欲的に取り組む。

製作したものを使用し、飛ばす楽しさを味わう。

内容⇒紙飛行機をゴムや紙を使って製作する。

できた紙飛行機を使って楽しく飛ばす。

となった。かなりねらいと内容が整理されたものになったと考えられる。

指導案作成において、事例や画像を加え講義を行うことは、学生にとって保育現場や保育者の動き、子どもの動きがイメージしやすくなることがこのことから分かる。

この結果から教員に求められる資質・能力を育成することは、指導案作成において様々な方向からのアプローチが必要不可欠なことが分かった。指導案は、総合的な能力が必要である。

- ・保育の方法
- ・子どもの姿を観察する能力
- ・それによって今この時期の子どもたちにはどのような能力が必要であり、どんなねらいや内容を設定していくのかを考える能力
- ・発達段階を理解し、子どもにとって興味や関心のある主活動を設定する能力
- ・子どもの安全に対しての配慮を行う能力
- ・子どもを理解する能力
- ・子どもの気持ちにたって物事を考える能力等、多岐にわたる能力である。

よって指導案を作成する際の能力は、総合的な能力が必要であり、保育者養成段階においては2年間を通じた総合的な科目を修得した能力が不可欠であることが考えられる。そのため

め、教育課程総論の授業のみで完結するものではないが、作成の基本的な部分を十分理解できるような授業の進め方を行う事が望まれる。その意味では、学生の理解として指導案作成の能力はおおよそ備わっているのではないかと考えられる。

III おわりに

小論では、教職に関する科目であるにおいて受講者である学生が指導計画を作成し、そして模擬保育を試み、その授業記録を分析し、教員・保育士として必要な資質・能力が如何に高まったのかを探ることを目的とした。その結果、指導計画を作成し、模擬保育の実践の振り返りの記録の結果の考察から資質・能力の向上を図る上での有効性が一定程度明らかとなつたといえよう。

まず、保育指導法演習で学生は、子どもをよく理解して接することの大切さや、そのうえで言葉のかけ方を考えることが肝要であり、その基盤となるのが子どもとの信頼関係あることを実感しているのである。また、実践を通して、自己の保育を俯瞰する能力が身に付いているのである。このことが、自己の保育観に変容をもたらしたといえよう。

次に、幼稚園教育実習（責任実習）では、子ども一人一人の特性や実態を保育者が把握したうえで、保育活動のねらいや活動内容を考え、吟味することの重要性に気付くことができたのである。そして、ねらいの達成に向けた環境の構成や支援の方法についても検討することの必要性を理解しているのである。さらに、これらは個別に構成されるものではなく、総合的に思考・判断する能力が求められることを学生は気付いているのである。

このようなことから、学生は、幼稚園教育課程における各科目を学ぶ意義やその必要性を実感することができたといえよう。また、資質・能力の向上を図るうえで、実践を通しての学生間の学びの交流が、学びを広めたり深めたりすることに影響を与えていたといえよう。したがって、学生が学びを通して、資質・能力の向上を図るために、主体的・対話的で深い学びによる授業改善が必要であるといえるが、これらについては筆者の今後の課題したい。

